



(題字 時澤 貢 学長)

第390号  
(平成9年6月号)



▲ 時澤学長就任挨拶 (平成9年6月16日:事務局大会議室)

## 目 次

関係法令	3	職員消息	
諸会議	3	◆ 住所変更	19
学 事	4	主要行事	19
◆ 平成9年度科学研究費補助金の交付決定	4		
人事異動	9		
<b>特集</b>			
「退任に当たって」			
－ 前学長 小黒千足 －	11		
「学長就任に当たって」			
－ 学 長 時澤 貢 －	12		
学 内 諸 報			
◆ 水素同位体機能研究センター長に渡邊教授を 選出	14		
◆ 小黒前学長に名誉教授の称号授与	15		
◆ 小黒前学長が最終講義	16		
◆ 教育学部で消防訓練を実施	16		
◆ 平成9年度春季国立12大学経済学部・経営学部 学部長及び事務長会議を開催（経済学部）	17		
◆ 海外渡航者	17		

## 関 係 法 令

### (政 令)

- 国家公務員退職手当法等の一部を改正する法律の施行期日を定める政令(216)

(平9.6.24 官報号外第125号)

- 国家公務員退職手当法施行令及び災害対策基本法施行令の一部を改正する政令(217)

(同上)

### (省 令)

- 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令(文

部31)

(平9.6.26 官報第2167号)

### (規 則)

- 人事院規則17-0(管理職員等の範囲)の一部を改正する人事院規則(人事院17-0-46)

(平9.6.25 官報第2166号)

## 諸 会 議

### 第103回構内交通対策委員会(6月2日)

#### (議 題)

- (1) 一斉指導等の結果報告について
- (2) 実施要項見直し小委員会について
- (3) その他

### 第1回入学試験実施委員会(6月3日)

#### (審議事項)

- (1) 問題作成専門委員会委員について
- (2) 健康診断専門委員会委員について
- (3) 電子計算機処理専門委員会委員について

### 第1回教養教育委員会(6月4日)

#### (審議事項)

- (1) 平成9年度教養教育経費の要求について
- (2) 教養教育におけるTA利用について
- (3) 学年暦の検討について
- (4) その他

### 第1回大学開放事業(夢大学 in TOYAMA)実施調整委員会(6月10日)

#### (議 題)

- (1) 平成8年度夢大学 in TOYAMA'96の実施結果について
- (2) 平成9年度夢大学 in TOYAMA'97の実施計画に

ついて

- (3) その他

### 第2回総合情報処理センター運営委員会(6月18日)

#### (審議事項)

- (1) 利用負担金について
- (2) その他

### 第1回学園ニュース編集委員会(6月19日)

#### (審議事項)

- (1) 今年度の編集方針について
- (2) コーディネーターの決定について
- (3) 富山大学学園ニュース第94号の編集内容について
- (4) その他

### 第3回部局長懇談会(6月20日)

#### (議 題)

- (1) 当面の諸問題について
- (2) その他

### 第4回評議会(6月20日)

#### (審議事項)

- (1) 平成9年度学内予算配分(案)について
- (2) 富山大学名誉教授称号授与について
- (3) その他

## 第2回事務協議会（6月24日）

## （審議事項）

## （議 題）

当面の諸課題について

(1) 日本海経済研究センター（仮称）の組織、運営等  
について

(2) その他

## 第3回日本海経済研究センター（仮称）設置準備委員会

（6月25日）



## 平成9年度科学研究費補助金の交付決定

このたび、平成9年度科学研究費補助金の交付が決定しました。

本学における研究種目ごとの決定件数・金額等は、以下の表のとおりです。

研究種目	新規申請件数	交付決定件数	交付決定額	新規採択率(%)	平成8年度 交付決定件数	平成8年度 交付決定額
重点領域研究(1)			千円		1	千円 1,400
重点領域研究(2)	29	6	12,000	20.7	7	15,000
基盤研究(A)(1)	1	1 ( 1 )	4,100	0	2 ( 1 )	11,000
基盤研究(A)(2)	1	0	0	0	0	0
基盤研究(B)(1)	1	0	0	0	0	0
基盤研究(B)(2)	37	8 ( 4 )	23,300	10.8	6 ( 4 )	11,200
基盤研究(C)(1)	4	0	0	0	0	0
基盤研究(C)(2)	116	41 (17)	52,400	20.7	33 (15)	33,700
萌芽的研究	21	4	5,700	19.0	1	1,800
奨励研究(A)	65	18	23,300	27.7	21	20,800
国際学術研究	8	2 ( 1 )	6,000	12.5	2 ( 2 )	9,000
計	283	80 (23)	126,800	20.5	73 (22)	103,900

注1. 平成9年度から、継続課題は原則として申請が不要となった。

2. 「交付決定件数」欄の( )内は、継続課題の採択件数を内数で示す。

## 平成9年度科学研究費補助金交付決定者一覧

研究種目	研究代表者			研究課題	交付決定額	配分予定額		
	所属	職	氏名		平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
重点領域研究(2)	工学部	助教授	松木 賢司	ナノ結晶化アルミニウム粉末合金の高速超塑性特性とその粒径依存性に関する研究	千円 1,800	千円	千円	千円

研究種目	研究代表者			研究課題	交付決定額	配分子定額		
	所属	職	氏名		平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
重点領域研究(2)	工学部	教授	北野 博巳	一次構造が精密に制御されたテロマーのリン脂質への導入	千円 2,000	千円	千円	千円
〃	理学部	教授	櫻井 醇児	磁性多層膜細線の極低温領域における電気抵抗測定とMQT効果	1,600			
〃	工学部	教授	吉村 敏章	硫黄窒素三重結合の化学	2,000			
〃	工学部	教授	北野 博巳	糖担持ブロックテロマー自己組織化膜上における認識応答	1,600			
〃	理学部	助教授	若杉 達也	タバコの色素体の分裂制御にはたらくmin遺伝子の構造と機能	3,000			
基盤研究(AX1)	理学部	教授	小島 寛	カルシウム動態から見た環境変動が陸域生態系に及ぼす影響の予測	4,100	1,800		
基盤研究(BX2)	理学部	助教授	金森 寛	FTRaman分光法によるバナジウム(Ⅲ)錯体の溶液構造の研究	500			
〃	理学部	助教授	川本 恵一	哺乳類における下垂体ホルモン分泌能の単一細胞レベルでの解析	700			
〃	理学部	教授	尾島 十郎	ジアザ[n]アヌレンの合成と芳香族性に関する研究	1,800	1,800		
〃	水素同位体機能研究センター	教授	松山 政夫	制動X線計測法による固体中トリチウムの測定・評価技術の開発	1,000	1,000		
〃	人文学部	教授	中河 伸俊	家族をめぐる言説の実証的研究	1,500	1,000	1,000	
〃	工学部	教授	佐々木和男	摂食で遊離される酸性線維芽細胞増殖因子の学習・記憶、内分泌及び免疫系に対する作用	7,500	2,700	3,100	
〃	教育学部	教授	山極 隆	インターネットの教育利用の実践上の問題とその支援体制のあり方	4,300	1,300		
〃	理学部	教授	高木光司郎	分子イオンの遠赤外及び赤外分光	6,000	1,800		
基盤研究(CX2)	人文学部	教授	藤本 幸夫	日本現存朝鮮古刊本の調査とその語学的・書誌学的研究	400			
〃	人文学部	助教授	筒井 洋一	通信ネットワークを使ったドイツ占領政策分析の基礎的研究1945-49年	500			
〃	工学部	教授	坂井 純一	太陽フレアにおける電流ループとプラズマ雲の衝突過程の研究	300			
〃	教育学部	助教授	渡邊 信	単細胞性緑藻クロレラ目および近縁目の分子系統	400			
〃	経済学部	教授	小倉 利丸	多文化主義時代における文化伝播をめぐる情報、文化産業と大衆文化の相互依存関係研究	200			
〃	理学部	助教授	栗本 猛	CP対称性の破れと物質起源の実験的検証法の理論研究	400			
〃	理学部	教授	広岡 公夫	考古地磁気の地域差とその年代推定への応用	400			



研究種目	研究代表者			研究課題	交付決定額	配分子定額		
	所属	職	氏名		平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
基盤研究(CX2)	理学部	助教授	酒井 英男	遺物の熱履歴を磁化特性で調査する方法の研究	千円 500	千円	千円	千円
〃	教育学部	助教授	鼓 みどり	ユトレヒト詩篇挿絵の構図をめぐる研究	500			
〃	理学部	教授	川崎 一郎	スロー・アースクエイクとモーメント解放の時空間分布	900			
〃	理学部	教授	氏家 治	普通輝石斑晶中でのSr-Nd同位体交換	600			
〃	工学部	教授	黒田 重靖	カテナセン(仮称)の合成およびその性質に関する研究	900			
〃	工学部	教授	佐治 重興	メカニカルアロイング法により創製したAL-Ti系非平衡相粉末の超高压・低温成形	600			
〃	工学部	助教授	伊藤 研策	同符号荷電平板-微粒子間の超長距離静電相互作用に関する研究	500			
〃	工学部	助教授	磯部 正治	T細胞受容体遺伝子座異常とT細胞白血病	1,300			
〃	経済学部	助教授	西村 秀二	スポーツ障害と刑法	800	800		
〃	教育学部	助教授	田上 善夫	モンスーンアジアと北大西洋周辺地域の歴史時代の気候変動	800			
〃	教育学部	教授	黒柳 晴夫	インドネシア農村の社会変動と教育に関する比較社会学的研究	1,600	1,000		
〃	人文学部	教授	東田 雅博	ヴィクトリア朝末期における「黄禍」論的反応の総合的研究	1,200	900	500	
〃	経済学部	教授	八木 保夫	イギリス環境法における総合的汚染規制システムの研究	500	500		
〃	経済学部	教授	小原 久治	地場産業の集積構造変化の解明と振興策に関する中小企業論・産業組織論的動態分析	400	300		
〃	工学部	助教授	江上 繁樹	対称行列の加法的整数論	800	500		
〃	教育学部	助教授	岡安 隆	負曲率空間の全曲率の幾何学	2,400	700		
〃	理学部	教授	久保 文夫	作用素環における非可換不等式の数式処理を用いた研究	1,900	1,200		
〃	理学部	助教授	池田 榮雄	2次元領域における進行スポットパターンの分岐について	1,700	1,000		
〃	理学部	教授	石川 義和	サイン波型の磁気構造をもつ重い電子系物質のドハース=ファンアルフェン効果	2,400	700		
〃	工学部	助教授	小田 晃規	高度に5員環の縮環した新奇不飽和炭化水素の合成研究	2,300	500	500	
〃	理学部	助教授	笠原 一世	錯形成とイオン会合を駆動力とする高機能性分離・濃縮剤の開発と環境試料分析への応用	1,800	1,200		
〃	工学部	教授	塩澤 和章	プラズマ利用によるハイブリッド表面創製材の疲労強度信頼性評価	2,300	1,100		
〃	工学部	教授	竹越 栄俊	Cu-Mo系複合材料を用いた半導体用放熱基板の開発と熱物性に関する研究	1,100	700		

研究種目	研究代表者			研究課題	交付決定額	配分予定額		
	所属	職	氏名		平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
基盤研究(C)(2)	工学部	教授	小泉 邦雄	直接位置測定しない自動駆動制御型跳躍歩行機械の研究	千円 1,200	千円 500	千円	千円
〃	工学部	助教授	山本 健市	微細粒子群の湿式形状分離装置の開発	2,500	900		
〃	理学部	助教授	大澤 力	不均一系立体区別不斉修飾貴金属触媒の設計と調製	2,500	700		
〃	理学部	教授	山田 恭司	ゴマの分子・細胞育種に関する基礎研究	2,300	900		
〃	教育学部	助教授	諸岡 晴美	高伸縮性衣料による圧迫が人体生理・心理に及ぼす影響	2,900	500		
〃	教育学部	助教授	広瀬 信	19世紀イギリスにおける科学者・技術者養成システムの研究	1,200	900	500	500
〃	教育学部	教授	横山 泰行	スポーツ場面におけるイメージトレーニング・プログラム作成に関する基礎的研究	500	500		
〃	教育学部	教授	山西 潤一	精神的作業負荷を指標としたWWW用GUIの設計	1,800	1,300		
〃	教育学部	教授	室橋 春光	学習障害児における認知過程の分析と認知特性に応じた教科学習援助法の開発	3,100	300	300	
〃	工学部	教授	村井 忠邦	逆問題手法による雷雲の電気的構造推定に関する研究	1,800	1,200	500	
〃	水素同位体機能研究センター	助教授	舒 衛民	多層構造プラズマ対向材料におけるトリチウムの捕獲挙動	2,200	700		
萌芽的研究	教育学部	助教授	淡川 典子	原子力発電「先進国」（アメリカ・カナダ・スウェーデン）の原発防災対策	800	800	500	
〃	理学部	教授	佐竹 洋	一雨ごとの同位体と流跡線解析による大陸起源硫酸イオン輸送状況の精密解析	2,000			
〃	工学部	教授	岩城 敏博	クラスターの衝突過程におけるエネルギー変換機構	1,400	300		
〃	工学部	教授	池田 長康	気一液2相媒質を用いた一様非連続媒質における絶縁破壊の基礎研究	1,500	200	200	
奨励研究(A)	人文学部	講師	長井 由里	張作霖政権時期（1916-28年）を中心とする中国東北地方の近代史	1,100	1,000		
〃	人文学部	助教授	前川 要	戦国期城下町成立期における都市空間構造の考古学的研究	1,300	1,100		
〃	人文学部	講師	加藤 重広	単一品詞に分類できない語の語彙機能論的分析	1,200	600		
〃	経済学部	助教授	大森 義明	アメリカにおけるジョブ・マッチングの男女差	800	1,300		
〃	教育学部	助教授	市川 文彦	19世紀フランスにおける国内市場統合化と流通体系形成に関する計量史的研究	1,000	700		
〃	経済学部	助手	柳原佐智子	企業内情報教育における情報リテラシーのモデル化	1,000	400		

研究種目	研究代表者			研究課題	交付決定額 平成9年度	配分予定額		
	所属	職	氏名			平成10年度	平成11年度	平成12年度
奨励研究(A)	経済学部	助教授	林 健治	多国間上場企業の自発的会計情報開示行動に関する実証研究	千円 700	千円 500	千円	千円
〃	理学部	助教授	細野 忍	超弦理論とCalabi-Yau多様体の退化	1,400	1,000		
〃	理学部	助教授	藤田 安啓	エルゴード的在庫管理問題について	1,200	800		
〃	理学部	助手	池本 弘之	高温・高圧下で金属化した液体Se-Teのホール係数と交流伝導度	1,000	1,000		
〃	工学部	助手	藤井 孝宜	新規光学活性チアザインの合成とその特殊機能の開拓	1,800	600		
〃	理学部	助手	辻 瑞樹	生活史戦略理論によるアリ類の社会進化の再検討	1,900	500		
〃	理学部	助手	和田 直也	温暖化及び生育期間の延長が高山植物の成長特性に及ぼす影響	1,500	500		
〃	理学部	助教授	若林 達也	葉緑体分裂に関与する遺伝子についての研究	1,300	700		
〃	工学部	助手	岡根 正樹	フレッキング損傷の発生と極めて早期段階でのき裂進展機構の解明に関する基礎的研究	1,600	700		
〃	工学部	助教授	神原 貴樹	遷移金属錯体触媒を用いる新規縮合系ポリアミン生成反応の開発	1,400	800		
〃	人文学部	講師	丹羽 弘一	路上生活者、日雇労働者及び寄せ場が直面する諸問題について	1,300	800		
〃	工学部	助手	加賀谷重浩	二酸化チタン光触媒反応を用いた含金属-EDTA錯体廃液の処理	1,800	500		

## 平成9年度科学研究費補助金（国際学術研究）交付決定者一覧

区分	研究代表者			研究課題	交付決定額 平成9年度	配分予定額	
	所属	職	氏名			平成10年度	平成11年度
共同研究	経済学部	教授	飯田 剛史	在日コリアンの社会的ネットワークと文化動態に関する比較社会学的研究	千円 3,500	千円	千円
〃	理学部	助手	辻 瑞樹	アリ社会の共同と対立に携わるコミュニケーション機構	2,500	2,300	



# 人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
採 用	9. 7. 1	片山 進		技能補佐員（厚生課調理師）
昇 任	9. 6. 13	時澤 貢	教 授 工学部	富山大学長（～13. 6. 12）
	9. 7. 1	山下 正人	助教授 教育学部（技術教育）	教 授 教育学部（技術教育）
	〃	竹内 章	助教授 理学部（地球科学科）	教 授 理学部（地球科学科）
	〃	中村 克己	工学部経理係経理主任	富山工業高等専門学校会計課出納係長
	〃	飯野るみ子	庶務部庶務課庶務係	庶務部庶務課庶務係庶務第三主任
	〃	大門 聡	教育学部学務係	教育学部学務係学生主任
配 置 換	9. 7. 1	松田 義弘	人文学部・理学部用度係用度第二主任	工学部経理係経理主任
	〃	藤田 一吉	人文学部・理学部用度係用度第一主任	人文学部・理学部用度係用度主任
臨時的任用	9. 6. 24	平野砂都美		経理部経理課管理係（～10. 3. 31）
辞 職	9. 6. 23	大田 國彦	経済学部会計係会計主任	辞 職
	〃	平野砂都美	事務補佐員（経理部経理課）	〃
退 職	9. 6. 13	小黑 千足	富山大学長	平成9年6月12日限り任期満了により退職
	9. 7. 1	五十嵐清平	臨時用務員（経理部経理課作業員）	平成9年6月30日限り退職
	〃	荒井 柳三	技能補佐員（施設課機械操作手）	〃
	〃	片山 進	〃（厚生課調理師）	〃
	〃	室谷 智	技術補佐員（総合情報処理センター）	〃
	〃	杉本 圭優	〃（ 〃 ）	〃
	〃	知念 賢司	〃（ 〃 ）	〃
	〃	吉田 博一	〃（ 〃 ）	〃
	〃	神田 明典	〃（ 〃 ）	〃
	〃	澤瀉いづみ	教務補佐員（人文学部・理学部）	〃
	〃	山本 千夏	事務補佐員（ 〃 ）	〃
	〃	山口伊紀子	〃（ 〃 ）	〃
	〃	西塚 麗子	〃（教育学部）	〃
	〃	竹井 公子	臨時用務員（教育学部作業員）	〃
	〃	福島 春代	〃（ 〃 ）	〃
	〃	中西 義夫	〃（ 〃 ）	〃

異動区分	発令年月日	氏 名	異 動 前 の 所 属 官 職	異 動 内 容
退 職	9. 7. 1	館野 洋子	臨時用務員（教育学部作業員）	平成9年6月30日限り退職
	〃	江川 秀子	事務補佐員（工学部）	〃
併 任	9. 6. 8	渡邊 國昭	教 授（水素同位体機能研究センター）	水素同位体機能研究センター長 （～11. 6. 7）
	9. 6. 13	時澤 貢	富山大学長	評議員（～13. 6. 12）
育児休業	9. 6. 4	鳥海衣美子	経済学部教務係	育児休業（～9. 11. 28）
	9. 6. 24	中波 憲子	経理部経理課管理係	〃 （～10. 3. 31）

## 特集

## 退任に当たって

前学長 小黒 千足

今から6年前、平成3年の6月、学長に就任した挨拶を学報に載せるため、頭の中を整理していました。その結果、タイトルは「冬を迎えて」となり、国立大学が抱える問題点とそれに対する社会的批判、そして私の考えを述べました。当時の私の想いの中心は、国立大学はこれからも存続するのか、富山大学は生き延びることが出来るのかでした。生き延びるためには、大学のシステム特に教育改革が必要であり、それを実現するためには、まず教員の意識が変わることが先決であるとの結論に達しました。そのための第1投が「冬を迎えて」でした。

私が学長に就任した直後、平成3年7月に大学設置基準の改正があり、その中に、いわゆる大綱化と自己点検評価が2つの大きな柱として峻立しておりました。まさに、設置基準の上からも教育改革を迫られたのです。当時の私は、本学ではこれらへの対応は非常に難しいと考えておりました。しかしながら、大綱化に対しては、前学長大井先生がつくっておいて下さった「大学教育改善検討委員会」が精力的にしかも前向きに検討し、驚くべき短期間で答申を提出されました。この委員会の審議に際しては、委員長、部長をはじめ多くの委員が高い見識と先見性をもって当たられ、立派な結論を得られました。さらに、事務局の積極的支持も見逃すことは出来ません。またこの委員会で、それまで全学的運営や大学の方針などにあまり関わりをもたなかった、中堅あるいは新進の教員が全力をあげて論議し、審議を進めたことは、私の大きな喜びでした。当時、大学がおかれていた社会環境や当面する事態を理解せず、私的意見に終始し、あるいは狭い視野に立つ学部内事情をあげ、改革に無理解であった一部に困惑していた私には、これらの教員の存在は一服の清涼剤でした。俗な表現ですが「富山大学の将来もまんざら捨てたものではない」というのが率直な感じでした。

さてその結果、本学では全国の国立大学に先駆けて教育改革を実施できました。勿論、完璧はあり得ませんので、さらに検討改善するところが多いことは事実です。しかしながら、現在改善する点があることを理由に、あるいは感情的に本学の教育改革に異を唱える



のは当たりません。振り返って、当時富山大学が改革に取り組むのが遅れていたらと思うと、背筋が寒くなるような気がします。

ところで、6年前に到来した冬は過ぎたのでしょうか。春がくる筈であった現在ですが、残念ながらむしろ春は遠くなりました。現況をよく勉強している方は理解していると思いますが、少し前、行革審が国立大学地方移管や学校法人化を真剣に検討していました。これは国大協で論議され、私は評議会などでも報告し、本学の将来のために何をなすべきかを論議してほしい旨お願いしました。しかしながら、それから半年を経ないうちに更に事態は変化しました。

その一つは、自民党財政改革素案です。項目を挙げますと、1) 国立大学教員養成課程の学生定員を大幅に減らす、2) 国立大学の事務職員数を1割以上削減する、3) 教員の給与水準を引き下げる、4) 一般会計から国立学校特別会計への繰り入れを削減する、5) 授業料等を引き上げる、などです。このうち1)については、既に早急な対応を迫られています。このことは、教育学部だけの問題でなく、すべての学部が痛みを分けあって対処しなければならない問題だと思います。以前にも書きましたが、全体の繁栄が無くてその一部(個)の隆盛はありえません。学部の(狭い視野に立った)利益を云々する問題ではなく、富山大学全体のために、全学的にいかに対応するべきかを考える必要があります。

さらに、行政改革会議の素案は驚愕する内容です。すなわち、文部省は独立行政法人となり、教員を含むすべての職員は、国家公務員ではなく、法人の職員になります。また、予算・決算は、企業会計扱いとなり

ます。いま、これを読んでいる教職員の皆さんは、以上の内容をどのように理解されるでしょうか。また、この素案が実行された際に何がどのようになるのか、よくお考え下さい。

以上、国立大学にとって春は遠い話で、まさに氷河期以上の環境を迎えているように思われます。しかし、ここで嘆くだけでは何も改善されませんし、事態は好転しません。なすべきことは、「我々は将来に備えて、今何をなすべきか」を真剣に考え、論議し、結論を得たら、不動の決意をもって実行することです。地域に根ざし社会との連携を深めること、入試を抜本的に改善すること、留学生（短期も含め）対応を進めること、外部からの研究費を増やすこと、教育を（過去の実体

や慣行にとらわれないうで）改善すること、教員採用に際し教育評価をすること、などなど、考えられる事柄は数多くあります。ここで強調致しますが、社会が変わり、政府の方針が変わり、そして、学生が変わってきたのですから、我々も変わらなければ、大学に未来はありません。どのように変わらなければならないか、あらゆる知恵を絞って下さることを希望いたします。

本来、在任中の諸々についてお礼を述べるべき処、愉快でないことばかり書きましたことを、お許し下さい。流れてきた私を拾い育てて下さった富山大学は、私の「ふるさと」になりました。「さらば故郷よ栄えあれ」が、今その地を去る私の心境です。

## 学長就任に当たって

学長 時澤 貢



このたび、小黒千足前学長が任期満了により退任され、新たに学長候補者として選出され、去る6月13日文部省において、文部大臣から学長の辞令をお受けしたところです。

私儀学長の大役を仰せつかり、これからの本学の発展に向けての重い責任を痛感しております。全学の教職員の皆様方の絶大なるご協力をお願いいたします。

学長就任早々6月17日から東京都内の学士会館において、国立大学協会（国大協）総会、常置委員会並びに国立大学長会議が開催されました。この3日間にわたる審議状況を報告し、富山大学の果たすべき今後の課題等も含めて、就任の挨拶とさせていただきます。

まず、学長会議における文部大臣の挨拶は以下の6項目

1 教育改革（人材の養成）、2 国立大学の在り方（財政構造改革）、3 オープンで責任ある大学運営（主として外部評価の取組み）、4 大学改革（主として教員の任期制）、5 学術研究の振興（科学技術創造立国を目指して）、6 就職問題（就職指導の充実）等の諸問題について当面の所見が述べられ、各国立大学は社会の期待にこたえ、より活発に充実した教育研究活動が展開し得るよう、一層尽力されたいとの協力要請がありました。

### 1. 教育改革について

「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」は、中央教育審議会から5月30日審議のまとめ（その二）として公表されました。これを受けて国大協では、「一人一人の能力・適性に応じた教育の必要性和基本的な考え方」として5項目を提示し、主として国際化、情報化、科学技術の発展、高齢化や少子化など社会の変化に適切に対応し、個性的な人材や創造的な人材の育成が不可欠とされています。また、国立大学においては大学院への進学率が毎年増加し、一層充実した高度な教育研究とその体制づくりの必要性が論議されました。

本学では、すでに平成5年度から4年一貫教育を実施し、カリキュラム改革による教養教育授業案内（シ

ラバス)を作成し、教養教育科目の中に学際的・総合的科目や小人数制セミナーを導入するなどの工夫をしています。今後の課題は、外国語及び保健体育の小人数教育に関する教官の負担増に工夫が必要とされています。

また、専門教育については、1年次より専門基礎科目や専門授業科目のシラバスを導入するなど、きめ細かな授業体系で実施していますが、さらに学生による授業評価も含めた点検評価によって、その問題点を改善していく方向で、努力する必要があります。

次に創造的な人材養成については、科学技術立国として発展してきた我が国が、今後さらに先導性・独創性を発揮し、国際社会に貢献していくために期待されています。このために創造性豊かな理工系人材の育成が課題となっています。本学では、平成10年度開設を目標に基礎科学と応用科学を融合した教育研究体制で、高度な専門職業人を養成する理工学研究科博士課程の創設を理学部と工学部で準備委員会を設置し、ご検討いただき、文部省に概算要求を行ったところです。

一方、工学部では平成9年度に学部改組を実施すると共に、「物づくり体験学習」を含めたカリキュラムを導入し、入試の多様化による専門高校卒業生を中心とした、グループ別創造性教育を推進しています。

次に入試改革については、今後の入学者の選抜方法はペーパーテストによる学力試験の他、自ら学び、自ら考える力に対する評価や多様な個性への対応に注目した改善が望まれております。今後、本学入学試験委員会等で検討を進めていきたいと考えております。

## 2. 国立大学の在り方をめぐる諸問題

本題については、現在二つの改革が進められています。その一つは「行政改革」、二つ目は「財政構造改革」であります。

行政改革会議は、平成8年11月に発足し、本年11月に国の行政機関の再編及び統合の大枠がまとめられ、平成10年1月の通常国会に法案を提出することとされています。特に国立大学については、独立機関化又は地方移管、民営化についての検討が対象とされています。

「財政構造改革」については、先日「財政構造改革の推進について」が決定されました。特に国立大学においては、事務組織の一元化や定員の削減などがあります。

事務組織については、第9次定割実施に織り込みつつ、さらに合理化による300人の削減を上乗せするこ

とにより約3,000人程度の削減を図り、事務職員全体の約1割を削減するとされています。また国立大学の入学定員の縮減については、教員養成課程の入学定員を教員の需給状況とその規模の適正化等近年の児童生徒数の減少を勘案しながら、さらに5,000人程度の大幅な削減を図り、ピーク時の2分の1規模に縮減するとされています。また、その他の学部への入学定員についても18歳人口の減少期を迎え、約5,600人の臨時定員を平成12年までに全廃するとされています。

以上のような二つの改革について国大協では、「国立大学の在り方と使命に関する特別委員会」において「報告書」をまとめ、慎重審議の結果を「要望書」として、文部大臣並びに行政改革会議に提出することになりました。また、文部省としても我が国の高度な学術研究及び人材養成に果す国立大学の重要な役割を踏まえ、これらの改革に対処していく所存であると言われております。この重要性を深刻に受け止め、国立富山大学の位置づけと必要性を「外部評価」によって、広く認識されるような体制づくりが望まれます。現在検討が進められている人文・社会科学系研究科博士課程の設置による高度な教育研究体制づくりや、環日本海地域における交流促進、環境問題、経済発展をねらいとする研究センターの設置等地域社会の発展に貢献できるような施策を早急に構ずべきであると考えております。また、このたび「国立学校設置法」の改正により、これまで法律で規定されてきた学部の名称等は政令で定めることとされ、閣議決定の必要がなくなり、より柔軟で弾力的な組織編成もできるようになったところでもあります。

## 3. オープンで責任ある大学運営

本題は、さきの国大協でも審議されていましたが、今回、さらに文部大臣からも要請されています。内容は教育改革を進める上で広く「外部評価される資料」として、大学と社会との間での情報交換(透明化)を積極的に取組んでほしいという内容であります。例えば教育研究の発展と質の向上のために大学にふさわしい客観的な評価を行い、さらにその結果を活用する仕組みについての対応が求められています。本学では、大学開放事業「夢大学 in TOYAMA」の諸行事において、すでに実施されているところでもあります。

## 4. 大学改革

我が国の将来を支える人材の養成と学術の振興を担う大学の役割は、近年ますます重要となっています。国立大学における教育研究の高度化は、学術研究の推

進と研究者の養成・確保に役立ち、その成果は今日の富山県産業の発展経緯からしても明白な事実であります。しかし、最近では産業の空洞化が目立ち、基礎科学と応用科学を融合した学問体系や豊かな生活や人づくり、そして地球環境問題が提示されています。そこで、このような現状を厳しく見直し、改革を不断に実行する決意が必須とされています。最近の我が国の学生の在籍数を地域配置別にみると、私立大学の学生は三大都市圏に約8割が集中、国立大学の学生は三大都市圏以外の地域に6割以上在学しています。また、そのうち大学院の学生に注目すれば6割以上が国立大学に在籍し、高度な学術研究の推進に果す国立大学の役割は大きいと言えます。

近年、大学をより個性豊かで活力あるものにするため、すでに平成3年「大学設置基準」が大綱化され、大学改革が進められています。また、教育研究の活性化を図るため、教員の流動性を高める「選択的任期制」を定めた「大学の教員等の任期に関する法律」が先般成立しました。この法律内容について、国大協では長時間かけて審議しました。法律はすでに通ったので基本的には賛成だがどのような問題が起こるか。これからどうすればよいのか。慎重に議論すべきだ。待遇改善問題。研究が中断しないか、各大学で検討してもらって、ある程度検討が進んでいる状態で国大協が考えるべきだ等々種々の論議がなされました。その結果、「早急に各大学で対応して検討していくべきであろう。」という意見が大半を占めました。また、学長会議では文部大臣は「この法律に基づいて任期制を導入するか否かを判断するのは各大学自身ですが、各大学におかれては、教員の流動性を高める方策の一つとし

て、任期制についてその趣旨が生かされるよう、十分な検討をお願いいたします。」との挨拶がありました。富山大学として、今後どのように対応するかは大学運営組織のルールにのって、慎重に論議したいと考えています。

#### 5. 学術研究の振興

我が国は21世紀に向けて「科学技術創造立国」を目指し、科学技術を積極的に振興するため、独創的な先端的研究や学術研究環境の整備を推進していく必要があります。本学においては、以下の推進を大学の責務と考えています。

- (1) 高度な教育研究
- (2) 独創的な研究開発
- (3) 新しい分野の人材養成
- (4) 学術研究の社会的協力と連携

以上の4項目にわたる学生への創造性教育により特色ある学術研究を展開されるよう教官各位にお願いする次第であります。

他方、研究費の不足、研究施設・設備の老朽化・陳腐化など学術研究環境の整備が各学部から指摘されています。今後、一層努力する所存であります。

以上、当面の諸問題についての所見を述べさせていただきました。これらの諸問題については、大学は勿論、自らのためにも各自が考え、対策を練り、解決策を得て、大学の繁栄のために実行されなければなりません。平成11年に富山大学創立50周年を迎えます。21世紀への新たな変革となるように富山大学の教職員が力を合わせ、積極的に問題に取り組み、絶えずプラス指向で前向きにより良い結果が得られることを心から願っております。

## 学 内 諸 報

### 水素同位体機能研究センター長に渡邊教授を選出

風巻紀彦水素同位体機能研究センター長の任期が、平成9年6月7日で満了することに伴い、水素同位体機能研究センター運営委員会は、去る5月6日（火）に、次期センター長候補者の選考を行いました。

その結果、渡邊國昭教授が選出されました。任期は、

平成9年6月8日から2年間。

渡邊教授は、昭和39年3月室蘭工業大学工業化学科を卒業、同43年3月北海道大学大学院工学研究科修士課程を修了後、同年4月北海道大学工学部助手に採用となり、同51年4月同助教授、同55年5月富山大学トリチウム科



学センター教授，平成2年4月同理学部教授，同年6月同水素同位体機能研究センター教授となり，現在に至っています。

専門は水素同位体科学。工学博士（北海道大学）。  
北海道出身

（就任の抱負）

水素同位体機能研究センターは，平成2年度に旧トリチウム科学センターの発展的改組に伴い設置された学内共同教育研究施設で，核融合炉の燃料である三重水素（トリチウム）と水素エネルギーに関する基礎及び応用技術の研究開発に寄与することを目指しています。周知の如くエネルギーを初めとするその他の公害から地球環境を保全することが世界的な重要課題になっており，今秋開催される京都サミットにおいてもその中心テーマに

取り上げられています。核融合炉も水素エネルギーシステムもその一つの有効な解決策として大きな注目を集めております。

当センターは，これまでに関係各位のご支援と協力を得て，多くの成果を上げることができ，平成7年度には定員及び設備の双方からの強化・整備が行われました。さらに，現在全国規模で進められつつあるCOEあるいはネットワーク構想のもとに，学内はもとより学外共同利用並びに国際協力に対してもしかるべき役割を担うことが期待されています。その期待にこたえと共に，富山大学における「特徴ある大学」作りの一翼を担うべく，教職員一同一層の努力と研鑽をする所存ですので，従来にもまして関係各位のご支援とご協力をお願いする次第です。

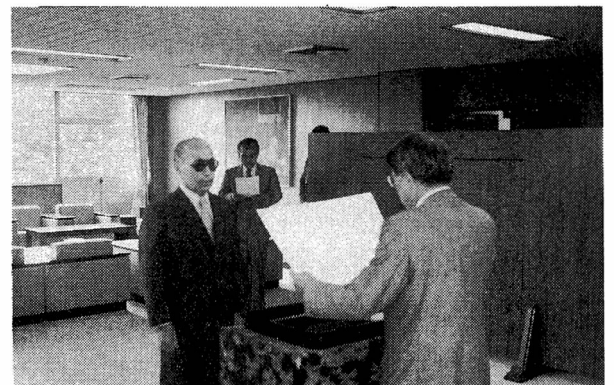
## 小黑前学長に名誉教授の称号授与

平成9年6月12日限り任期満了により退職されました前富山大学長小黑千足氏に対し，平成9年6月20日付けで富山大学名誉教授の称号の授与が決まり，去る6月27日（金）に時澤学長から称号記が授与されました。

名誉教授 小 黒 千 足  
北海道大学理学部動物学科卒業  
理学博士

小黑千足前学長は，昭和28年3月北海道大学理学部動物学科を卒業後，同大学大学院理学研究科（修士課程）に進学，同29年8月同研究科を退学し，同年同月北海道大学理学部助手に採用されました。同41年4月富山大学文理学部助手，同43年4月同大学文理学部助教授，同49年7月同大学文理学部教授，同52年5月文理学部改組に伴い同大学理学部教授となり，同54年5月から同62年3月まで富山大学評議員，同62年4月から平成3年3月まで富山大学理学部長，昭和62年4月から平成2年3月まで富山大学トリチウム科学センター長，同2年6月から同3年6月まで富山大学水素同位体機能研究センター長を併任されました。その後，同3年6月富山大学長に昇任し，同9年6月12日限り任期満了により退職されました。

この間，同人は42年有余の永きにわたって，人格清廉，温厚にして識見高く，たぐいまれなる教育者，研究者と



▲時澤学長から称号記を授与される小黑前学長（左）

して学生の教育と大学の管理運営に努められました。

特に，管理運営面での同人は，大学教育の高度化・多様化が求められ，新制大学発足以来最大規模の大学改革が進む中，他大学に先駆けて教育改革に取り組み，教養部を廃止して一般教育課程と専門教育課程を融合した4年一貫教育体制を実施，また，大学院工学研究科博士課程，教育学研究科修士課程の設置等大学院の整備充実に尽瘁したほか，高度情報化，地域に開かれた大学を目指して総合情報処理センター及び生涯学習教育研究センターの設置に尽力する等，大学の整備充実に努められました。

施設面では，経済学部校舎，工学部電子情報工学科及び化学生物工学科の実験研究棟，教育学部附属中学校情報教育棟の新築及び附属図書館，地域共同研究センターの増改築など，教育研究の環境整備に努められました。

さらに、国際化にも積極的に対応し、マレイシア工科大学との大学間学術交流協定の締結、イルクーツク国立言語総合大学英語学部（ロシア連邦）と人文学部、江原大学校経営大学（韓国）と経済学部など4大学との大学間学術交流協定の締結等国際学術交流の飛躍的な発展に寄与するとともに、急増する留学生を支援するため留学生相談室を開設するなど学内施設の充実にも尽力されました。

また、教育・研究面においては、永きにわたって動物形態学及び実験形態学に関する特色ある講義を担当し、厳格な中にも人間味あふれる指導で、幾多の有為な研究者・教育者等を育成するとともに、研究者としても、常に独創性・論理性を尊び、下等脊椎動物の電解質代謝をテーマとして数多くの業績を残されました。特に、血清Caの調整機能を比較内分泌学的観点から研究し、幾多の新しい発見をしたほか、ヒトテ類の分類学的研究を始めとする多くの動物の神経分泌、形態、発生の研究を行

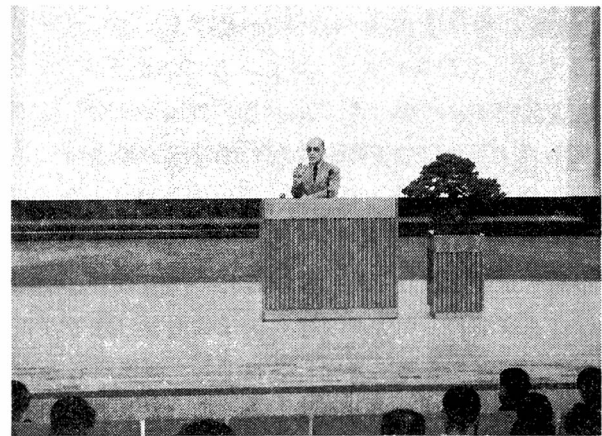
い、それら業績は、日本動物学会賞を受賞するなど高く評価され、斯界に大きな足跡を残しています。

一方、学外においては、日本動物学会、日本動物分類学会、日本比較内分泌学会、日本内分泌学会、日本生物地理学会、American Society of Zoologists, Society for Protection of Old Fish (U.S.A), International Federation of Comparative Endocrinological Societies, Asia and Oseania Society for Comparative Endocrinology等の学会に所属し、日本動物学会、日本生物地理学会、国際比較内分泌学会、日本内分泌学会、アジア・オセアニア比較内分泌学会、国際比較内分泌学会連合の評議員や日本動物学会国際雑誌『Zoological Science』の編集長を始め数多くの要職を歴任し、学術の振興に貢献するとともに、富山県総合開発審議会委員、富山国際センター理事、富山県高等教育振興財団参与等の要職を務め、地域社会の教育、科学技術及び産業の振興に尽力されました。

## 小黒前学長最終講義

小黒前学長の最終講義が去る6月9日（月）午後2時30分から黒田講堂大ホールで行われました。

当日は、「系統分類学の楽しみ」のテーマで、今日まで研究に取り組んできた事例を挙げながら分かりやすく講義が行われ、会場を埋め尽くした教職員・学生は、熱心に聴講していました。



▲ 最終講義を行う小黒前学長

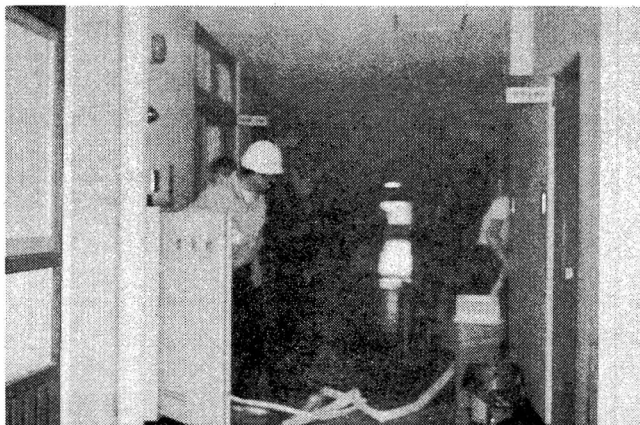
## — 消防訓練を実施（教育学部） —

教育学部では、火災発生時の学部消防隊の確立と教職員及び学生の防火思想の普及を図ることを目的として、去る6月11日（水）に消防訓練を実施しました。

当日は、午後2時45分教育学部第1校舎3階第4講義室から出火したとの想定で、教職員・学生の計250人が参加し、学部消防隊消火班による消火器の集結、屋内消

火栓を使用する消火活動、避難誘導等の一連の訓練を富山消防署の指導のもとに行いました。

引き続き、富山消防署員から火災予防の意義や訓練結果の講評を受けた後、実際に消火器を使用した消火訓練も行い、教職員・学生の防災意識の高揚が図られました。



▲屋内消火栓による消火訓練



▲消火器による消火訓練

### 平成9年度春季国立12大学経済学部・経営学部学部長及び事務長会議

平成9年度春季国立12大学経済学部・経営学部学部長及び事務長会議が、本学経済学部が当番校となり、去る6月5日（木）・6日（金）の2日間にわたり高志会館を会場として開催されました。

この会議は、小樽商科大学、福島大学、埼玉大学、横浜国立大学、信州大学、滋賀大学、和歌山大学、山口大学、香川大学、長崎大学、大分大学及び本学の12大学13学部の学部長と事務長が出席し、終始熱心に討議が行われました。

なお、会議の協議事項等は、次のとおりです。

（協議事項）

- 1. 研究科修士課程の定員充足のための取り組みについて
- 2. 大学改革後の修学状況について
- 3. 単位互換制度の活用について

（承合事項）

- 1. 新制大学創立50周年記念事業について
- 2. 学生に対してのケア（修学指導）について



▲全体会議

- 3. 在外研究員（長期、短期、若手研究者、海外研究開発動向調査）の選考基準について
- 4. 就職協定廃止に伴う就職指導及び修学指導面での対応について
- 5. 外国人留学生の受入れについて
- 6. 教官研究費の配分方法について
- 7. 学生の懲戒について

## 海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	工学部	助教授	奥井健一	ベルギー	第4回実験伝熱流体工学熱力学世界会議に出席，研究発表，資料収集	9.6.1 ） 9.6.7

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	工学部	教授	五嶋孝仁	アメリカ合衆国	熱応力'97国際会議に出席，研究発表及び熱応力に関する研究打合せ等	9.6.7 ) 9.6.17
	〃	助教授	石原外美	アメリカ合衆国	熱応力'97国際会議に出席，研究発表及びセラミック疲労に関する研究打合せ等	9.6.7 ) 9.6.16
	経済学部	教授	中藤康俊	大韓民国	第2次環東海圏国際学術シンポジウム等に出席	9.6.11 ) 9.6.16
	工学部	教授	竹越栄俊	香港 中華人民共和国	第2回伝熱促進及びエネルギー貯蔵国際シンポジウムに出席，研究発表，研究打合せ等	9.6.13 ) 9.6.22
	理学部	教授	高木光司郎	アメリカ合衆国	第52回分子分光国際シンポジウムに出席，研究発表，研究打合せ	9.6.15 ) 9.6.27
	工学部	教授	龍山智榮	連合王国	第6回半導体界面形成に関する国際会議に出席，研究発表，研究打合せ等	9.6.20 ) 9.7.2
海外研修	教育学部	助教授	堀田朋基	フィンランド	伸張一短縮サイクル運動の疲労に関する研究	9.6.8 ) 9.6.26
	〃	教授	長谷川総一郎	アメリカ合衆国	パブリックアートに関する打合せ及び資料収集	9.6.11 ) 9.6.22
	工学部	講師	小野慎	アメリカ合衆国	第15回アメリカペプチド討論会に出席，研究打合せ等	9.6.12 ) 9.6.26
	〃	助教授	伊藤研策	アメリカ合衆国	JST-NISTジョイントシンポジウムに出席，研究発表，資料収集等	9.6.16 ) 9.7.6
	人文学部	外国人教師	キャレン・フェダーフォルト	シンガポール	談話分析の定性研究に関する学会に出席	9.6.18 ) 9.6.28
	経済学部	助教授	岸本壽生	アメリカ合衆国	国際ビジネス学会，アジア太平洋地域会議に出席	9.6.18 ) 9.6.24
	教育学部	教授	西川友之	中華人民共和国	上海市におけるバレーボール・イベントの普及及び経営に関する調査研究	9.6.19 ) 9.6.23
	〃	〃	〃	ロシア連邦	モスクワ市におけるバレーボール・イベントの普及状況とその経営に関する調査研究	9.6.27 ) 9.7.7
	人文学部	教授	小谷仲男	イタリア	第14回南アジア考古学会議に出席，資料収集	9.6.28 ) 9.7.13

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
海外研修	工学部	助教授	田 島 正 登	ド イ ツ ス ペ イ ン	IEEE情報理論に関する国際シンポジウムに出席，研究発表等	9.6.28 ) 9.7.8

## 職 員 消 息

〈住所変更〉

部 局 名	官 職	氏 名
教 育 学 部	文部事務官	寺 田 明 弘
理 学 部	助 教 授	大 藤 茂
工 学 部	助 手	藤 井 孝 宜
〃	事務補佐員	加 藤 幸 子

## 主 要 行 事

### 本 部

- 6月2日 北陸地区国立大学人事担当課長会議（福井医科大学）
- 2日～3日 国立学校等施設担当部課長会議（東京医科歯科大学）
- 3日 第64回（春季）国立大学学生部次長協議会（横浜国立大学）
- 4日 平成9年度国立大学学生部次長・課長・高専学生課長会議（東京医科歯科大学）
- 5日 国立大学入学者選抜研究連絡協議会第18回大会（九段会館）
- 5日～6日 国立学校及び施設等機関等庶務部課長会議（東京医科歯科大学）
- 6日 平成9年度国立大学国際交流担当課長等会議（東京医科歯科大学）
- 9日 小黒学長最終講義
- 9日～13日 平成9年度国立学校事務電算化基幹要員A研修（中津川研修センター 岐阜県）
- 10日 第2回自己点検評価委員会研究活動等専門委

### 員会

- 学生生活協議会文化部会
- 12日 小黒学長退任式  
平成9年度大学入学者選抜・教務関係事項連絡協議会（大阪茨木市民会館）
- 13日 第2回自己点検評価委員会管理運営専門委員会  
放送利用の大学公開講座北陸地区打合せ会議（金沢大学）
- 16日 時澤学長就任式  
平成9年度学内予算配分方針説明会  
富山地区国立学校等人事担当課長会議（高岡短期大学）
- 17日 国立大学協会第100回総会（学士会館）  
平成9年度第1回大学入試センター試験富山県地区連絡会議  
平成9年度留学生交流研究協議会（新神戸オリエンタルホテル）
- 19日 国立大学長会議（学士会館）
- 20日 国立大学協会第67回事務連絡会議（学士会館）

- 23日 国立大学・国立高等専門学校リフレッシュ教育担当課長会議（東京医科歯科大学）
- 25日 北陸三県芸交祭運営委員会
- 26日 平成9年度国立大学入試担当課長連絡協議会（山形大学）  
富山県留学生等交流推進会議運営委員会幹事会
- 27日 第3回教養教育委員会管理運営専門委員会  
名誉教授称号記授与式  
第2回自己点検評価委員会教育活動専門委員会

## 人 文 学 部

- 6月4日 教授会  
教授会（人事）  
特別昇給委員会
- 11日 予算委員会  
学部入学者選抜方法検討委員会
- 12日 学部教務委員会
- 13日 学部将来計画委員会
- 16日 学部国際交流委員会
- 17日 予算委員会
- 18日 教授会  
教授会（人事）
- 24日 学部情報処理委員会
- 25日 学部学生生活委員会  
予算委員会

## 教 育 学 部

- 6月2日 学部学生生活委員会
- 4日 学部教務委員会  
教育学研究科委員会  
人事教授会  
教授会
- 5日 附属小学校運動会
- 6日 日本教育大学協会評議員会（KKRホテル東京）
- 7日 日本教育大学協会附属学校連絡協議会・分科会並びに附属学校連盟校園長・副校園長総会・校種別部会・連盟代議員会（お茶の水女子大学）
- 10日 特殊教育関係補助金等事務担当者会議（国立

教育会館）

- 11日 学部入学試験検討委員会  
教育学部消防訓練  
附属幼稚園避難訓練
- 13日 附属小学校自衛消防訓練
- 17日 附属中学校教育研究協議会
- 18日 学部将来計画委員会
- 19日～20日 平成9年度全国国立大学教員養成学部事務長会議（大分大学）
- 24日 附属中学校・事務室自衛消防訓練
- 25日 教育学研究科委員会小委員会  
学部入学試験検討委員会  
学部教育実習委員会  
人事教授会
- 30日 学部紀要編集委員会

## 経 済 学 部

- 6月4日 経済学研究科委員会小委員会
- 5日～6日 平成9年度春季国立12大学経済学部・経営学部学部長及び事務長会議（高志会館）
- 9日 学部入学方法検討委員会  
学部教務委員会
- 11日 人事教授会  
経済学研究科委員会  
教授会
- 18日 学部施設整備委員会
- 23日 学部教務委員会
- 25日 学部教務委員会  
学部入学方法検討委員会  
人事教授会  
教授会
- 27日 経済学研究科委員会小委員会

## 理 学 部

- 6月4日 学部就職指導委員会  
学科長会議
- 11日 理学研究科委員会  
教授会  
人事教授会
- 16日 学科長会議
- 17日 学部学生生活委員会
- 18日 学部防災対策・安全委員会（仮称）



- 理学研究科委員会  
 19日 理学部案内編纂委員会  
 ガラス工作室運営委員会  
 25日 学部教務委員会  
 予算委員会

### 工 学 部

6月5日～6日

平成9年度北陸信越地区国立大学工学部長懇談会並びに北陸信越工学教育協会第106回理事会及び第46回評議員会、通常総会（新潟大学）

10日 入学試験検討委員会

11日 教授会

専任教授会

博士後期課程委員会

12日 外国人留学生委員会

18日 3年次編入学試験（推薦）

20日 学部案内編集委員会

軽金属学会北陸支部春期講演会

24日 学部運営委員会

25日 教授会

研究科委員会

博士後期課程委員会

3年次編入学試験（推薦）合格発表

26日～27日 第35回中部圏国立大学工学系事務協議会（岐阜大学）

### 附属図書館

6月25日～26日

第44回国立大学図書館協議会総会（京都市勧業館）

### 地域共同研究センター

6月4日 経営者・研究者交流会第1回実行委員会

16日 国立大学共同研究センター長会議（臨時）  
 （東京大学）

27日 先端技術講演会

### 生涯学習教育研究センター

6月13日 東海・北陸地区放送利用の大学公開講座北陸地区打合せ会議（金沢大学）

16日～27日 富山大学公開講座「女性学 男性学（Ⅱ）」

### 総合情報処理センター

6月2日 第2回企画運営専門委員会

20日 第13回国立大学情報処理センター協議会総会  
 （埼玉大学）

### 保健管理センター

6月4日 学生定期健康診断（内科再検査）

11日 学生定期健康診断（耳鼻科再検査）

18日 学生定期健康診断（眼科再検査）

編 集 富山大学庶務部庶務課  
富山市五福3190  
印刷所 あけぼの企画株式会社  
富山市住吉町1丁目5-18  
電 話 (24)1755(代)